

# 関西センターの概要

# 関西センターの歴史

1918

大阪工業試験所

大阪工業技術試験所

大阪工業技術研究所

2001~

産総研関西センター

## 4大発明

代表的な発明である「炭素繊維」、液晶等向け「透明導電膜」  
「ニッケル水素電池用負極」などで社会に貢献

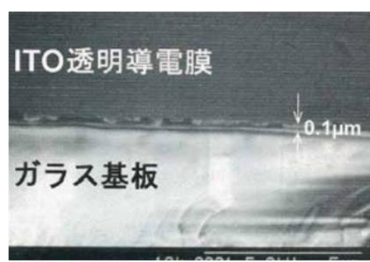


1932年 大仁本所@大阪市大淀区

1950's~  
炭素繊維



1960's~  
透明導電膜

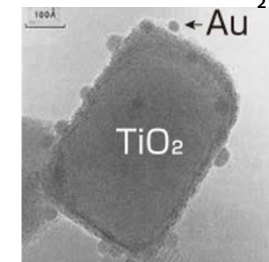
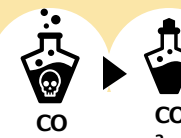


1970's~  
水素吸蔵合金

1980's~  
ニッケル水素電池



1980's~  
金ナノ粒子



## 組織構成

### 産総研 関西センター

敷地面積：78,686 m<sup>2</sup>【甲子園球場の約2倍】

電池技術研究部門

先進パワーエレクトロニクス  
研究センター

ナノ材料研究部門

バイオメディカル研究部門


先端フォトンクス・バイオセンシング  
オープンイノベーションラボラトリ

サイバーフィジカルセキュリティ  
研究センター

## 人数

常勤職員 ————— 約 **133** 名  
(内研究員 105名)

研究職員数 ————— 産総研全体の  
約 **5** %

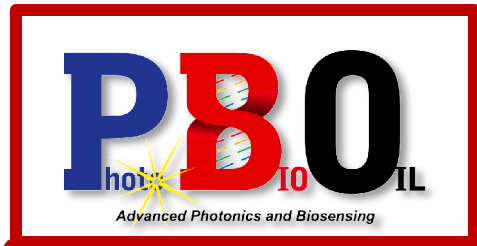


その他 ————— 約 **560** 名  
(ポスドク、産学官来所者、テクニシャン  
技術研究組合LIBTEC ほか)

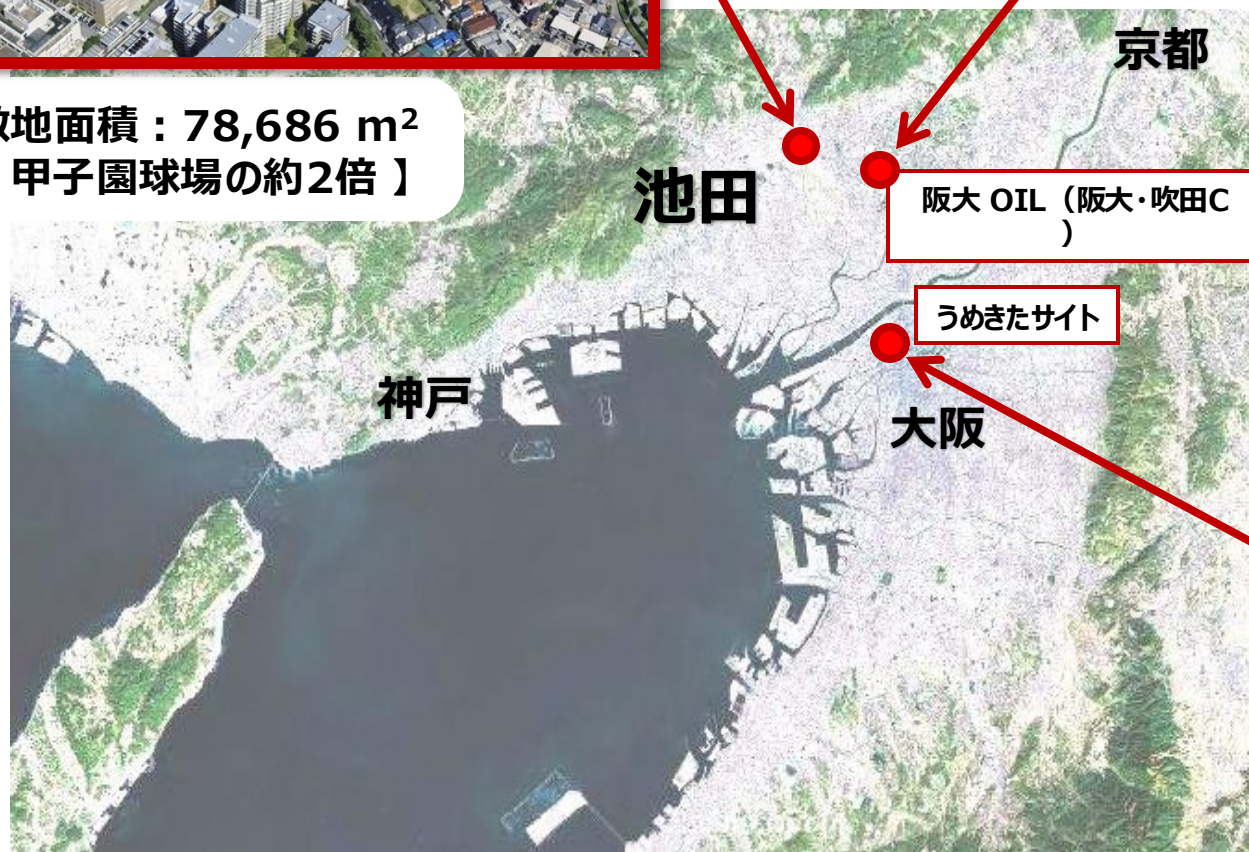




敷地面積：78,686 m<sup>2</sup>  
【甲子園球場の約2倍】



先端フォトンクス・  
バイオセンシングOIL



阪大 OIL (阪大・吹田C)

うめきたサイト



産総研・関経連  
うめきたサイト

# 関西の産業構造と関西センターの看板テーマ

## 大阪・関西の産業の特徴

### 規模

関西地域のGDPは全国の2割弱（約90兆円）  
（オランダと同程度）

### 構造

製造業は総生産の1/4弱、3/4が第3次産業  
（製造業割合は東海の半分、東京より若干大）

### 集積

基礎素材型産業が製造業の4割強を占める。  
化学、鉄鋼、生産用機械、電気機器等の割合が高く、  
輸送用機械の割合が低い。

リチウムイオン電池の4割弱、医薬品の3割強の  
生産が近畿地方で行われている。

先端技術に関連する加工組立型産業も集積。

素材・材料科学にも強い有力大学の集積。  
（京大、阪大、神戸大、大阪公立大学、関関同立他）

企業のコーポレート R&D 部門の集積。

## 関西圏企業群

近畿経済産業局

関西経済3団体

自治体・公設試（2府5県）

産業支援機関

関西圏の大学

緊密な  
連携・協力

関西センターへの  
リード役の期待も

看板テーマ：電池・生活素材・バイオ医療  
での技術と全産総研のシナジーにより  
関西地域産業の強化に向け  
ともに社会実装まで併走し  
社会課題を解決する

エネルギー・環境

生命工学

情報・人間

材料・化学

エレクトロニクス・製造

地質調査

計量標準